

第2回WEBフォーラム開催

いであ「YOUZAN」、港湾空港DX

NPOリサイクルソリ
ューション(RSO、山
縣宣彦会長)は9月29
日、第2回WEBフォー
ラムを開催した。当日は
フォーラムに先立って第



RSO第2回WEBフォーラムの様子

1回登録部会も開かれ
いであ(株)から登録申請が
出していた「水下次世代調
査セビリティホバリング
型AUV『YOUZAN』
(ようざん)」が登録承

認され、フォーラムにお
いてその技術も紹介され
た。

RSOの第2回WEB
フォーラムでは上記の
『YOUZAN』開発に
あたって、いであ(株)環境
調査事業本部執行役員の
峯岸宣彦氏、(一財)港
湾空港総合技術センタ
ー(SCOPE)業務執
行理事の傍土清志氏が、
「港湾空港事業とクラウ
ドDX時代のSCOPE
業務の方向性」と題
して講演した。会場出席
約20名と合わせ概ね70名
の参加があった。

先進的で意欲的な開発で
あり、国産技術であるこ
ともすばらしい。港湾社
会の新しい技術として新
たな展開に期待してい
る。RSOの活動は港湾
社会に新しいうねりを興
そうという旗印を掲げ、
アートによるみなと町づ
くり、臨海コンビナート
の再生、の2テーマを掲
げ昨年度から取り組んでい
る。アートによるみなと
町づくりでは昨年度、瀬
戸内(高松港)のアート
について研究し、今年度
は十和田市における取組
について研究している。

講演会
で、い
あ(株)峯
岸氏はホ
バリング
型AUV
『YOU
ZAN』
について
紹介。Y
OUZAN
は東京
大学生産
技術研究

フォーラム開催にあ
たって山縣会長は、「先ほ
ど登録部会が開かれ技術
開発研究部門の第1号と
して、いであ(株)のホバ
リング型AUV『YOUZ
AN』が認定された。

例について講演会を通じ

て情報収集し研究した。
カーボンニュートラル
(CN)については政府
から具体的な目標が示さ
れたこともあり、この
タイミングを捉えてコン
ビナートをどう再生して
いくのかについて皆様と
一緒に考え、更に深化さ
せていきたい」と挨拶
した。



いであ(株) ホバリング型AUV『YOUZAN』

て情報収集し研究した。
カーボンニュートラル
(CN)については政府
から具体的な目標が示さ
れたこともあり、この
タイミングを捉えてコン
ビナートをどう再生して
いくのかについて皆様と
一緒に考え、更に深化さ
せていきたい」と挨拶
した。

同機は昨年、NHKの
現地取材要請に応じて、
オーストラリア南東海

域(水深900m)海底
状況の詳細撮影による深
海底の生物群集、生息環
境の撮影・計測などを実
施し成果を上げた。今後
の展望として活用が期待
される分野としては、海
洋環境、海洋再生エネル
ギー、海洋資源開発、水
産分野などを想定してい
る。

港湾空港分野の DXとクラウド

またSCOPE業務執
行理事の傍土氏は、DX
時代に対応した港湾空港
事業の今後の動きとし
て、SCOPEが取組ん
でいる研究業務の概要を
説明した。①DXとは何
か、②クラウドサービ
ス、③クラウドに対する
政府の方針、④港湾空港
分野のDXとクラウド、
の各事項について解説

し、今後、港湾空港分野
におけるデジタル分野で
ビジネスがどう変化して
いくのかといった視点で
話を進めた。
SCOPEでは国土交
通省港湾局と連携し、港
湾インフラ分野における
サイバーポートの運用に
向けたシステム開発を進
めている。
同システムでは港湾施
設を一元的に管理するこ
とにより、各部門におけ
る同一情報の入力を省另

化し更新性を高めるとこ
もに、遠隔での技術支援
など、災害時の迅速な普
及にも寄与できる。更に
は政策の企画立案や民間
の技術開発の促進にも繋
がるものと見られてい
る。国土交通省では22
年度にテスト稼働を開始
し、23年度以降に重要港
湾以上に拡大していく予
定で、SCOPEではこ
うした取組をサポートし
ている。